DOKKYOのすごいところ
ドイツ語学科

一昨年度、昨年度の PROST!でも、獨協大学のすごいところを、おもに在学生や卒業生の声（2016 年）やドイツ語学科の先生（2017 年）を中心に聞いてみました。今年は学びの観点から捉え直したいと思います。

すごい その１　ドイツ語授業の充実

学科の専任教員は、およそ 20 名強が在籍しています。

そのうちの約半数が、NHK のラジオやテレビでのドイツ語番組で講師を務めたことがあります。

最近では、秋野有紀先生とマルコ・ラインデル先生がラジオの「まいにちドイツ語（入門編）」を担当しました（2016 年 4～9 月、再放送 2017 年 10 月～2018 年 3 月）。

E テレでは、岡村りら先生が「テレビでドイツ語」の講師を 2013 年 4～9 月に担当しています（再放送 2014 年 10 月～2015 年 3 月）。

さて、1 年次のドイツ語の必修の授業は週 5 コマ、そのうち 3 コマはドイツの教科書„Schritte International Neu“を使って学びます。ネットで聞き取り音声のダウンロードなどもできて、教室以外で自分自身で学ぶための方法も充実しています。

また、ドイツ語のしくみを学ぶ授業（文法）は、週 2 コマあります。上の教科書に準拠したものを、ドイツ語学科の教員が作成し、同じ出版社から出版しています。

全クラスで統一進度、統一試験を実施して、教員同士が連携、学科全体のドイツ語力向上に努めています。

すごい その2　専門授業の充実

一般的なドイツ語学科やドイツ文学科では、言語学や文学を専門にしている先生を中心に授業が構成されています。

それに対して、獨協大学のドイツ語学科では、それぞれの分野の専門家が集まっています。

言語学や文学はもちろん、芸術学・音楽学・歴史学・政治学・社会学・外国語教育法・文化政策といった幅広い分野を、それぞれの専門家に学べるのです。

その成果のひとつが、昨年 2017 年秋の獨協インターナショナル・フォーラムでした。

「ドイツ文化とルター」をテーマに、学科や協定校の先生の講演、先生方のネットワークを活かしての招待講演やバッハ・コレギウム・ジャパンの演奏など、まさに獨協大学のドイツ語学科だからこそ可能だった催しでした。

すごい その3　卒業後は語学や幅広い視野を活かして活躍できる

卒業後の就職先は、ドイツ語に縛られるものではありません。一般企業への就職や公務員としての就職なども可能です。それでも、

ドイツ語圏の航空会社でキャビン・アテンダントになった先輩、
通訳・翻訳家として活躍している先輩（企業内通訳も）、
日独スポーツ交流のかけ橋となっている先輩、
ドイツ語圏の観光業界、例えばホテルに就職した先輩、
マイスター資格を取った先輩、
「ドイツ平和村」で活躍している先輩、
ドイツの大学で日本語講師をしている先輩、
ドイツ系の科学研究所で日独の研究者の橋渡しをしている先輩、　などなど

ドイツ語能力やドイツに関する学びを活かして就職することも可能です。普通の「シュウカツ（就職活動）」とは違った道を進むことになりますので、バイタリティやオリジナリティが大切です。

自分の可能性を信じて、いろいろチャレンジしてみませんか。